



独立行政法人 国立高等専門学校機構

富山高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Toyama College

資料 3 - 7

北陸地域未来戦略検討会（第2回）（2026/4/28）

地域の産業人材育成について：富山高等専門学校のとりくみ

袋布 昌幹

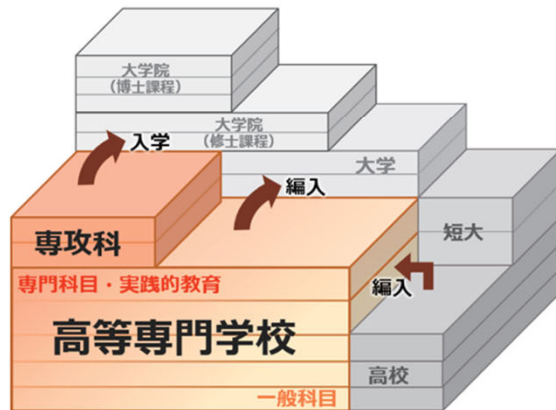
富山高等専門学校・校長補佐（研究開発共創担当）
研究開発共創(KNIT)センター長，物質化学工学科・教授



高専の特徴，地域との関係

15歳からはじまるカレッジライフ

高等専門学校は、高等学校とは異なり、学校制度の中では大学と同じく「高等教育機関」として位置づけられています。例えるなら「中学校卒業から入れるカレッジ」で、「5年一貫教育」「くさび形教育」「実践的教育」という3つの大きな特徴があります。これを本校では、「15歳からはじまるカレッジライフ」と呼んでいます。



本校の強み・地理的特性

富山県は歴史的に、北前船の重要な中継港となってきた海洋県であり、この交易によって始まった製薬産業・化学産業、そして立山連峰のダムエネルギー・水資源利用によって始まった素材加工産業を大きな二本柱とする我が国でも有数の工業県です。県内企業の多くは東南アジアを中心として広く支店網を持つ国際的企業であり、海外在留経験者の数も多いです。また、富山県の大学は、富山大学を含む4つの4年制大学と2つの短期大学しかなく、県内高等教育機関としての本校の役割は極めて重要となります。

本校の多分野にまたがる15歳からの専門基礎教育は、富山県の人材供給要請に良く対応しており、それぞれの分野及び地域の産業界から高く評価されています。このことは全国トップクラスの高専サポート企業の数及び受託研究・共同研究件数にも表れています。また、専攻科生を含めた地元就職率についても、全国高専でトップクラスです。これらのことから地域産業界への貢献度は非常に高いです。



全国の地域の産業特性にあわせて、それぞれの高専が特徴ある取組をしている。

最近の富山高等専門学校：数理・データサイエンス教育プログラム認定

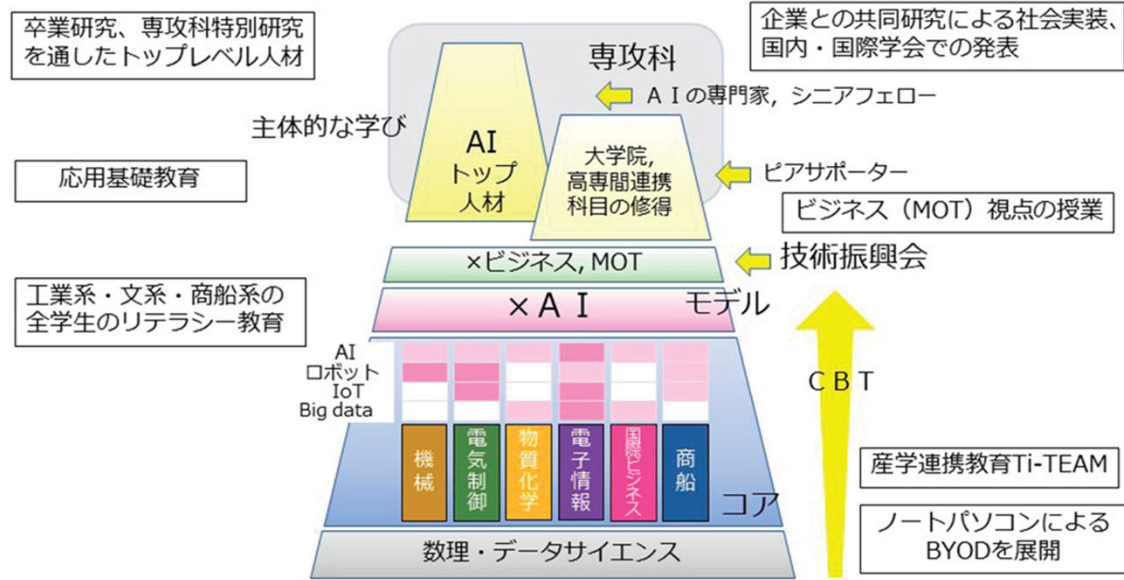


全学科が数理・データサイエンス教育を組み入れている



富山高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

Society5.0で「たくましく生きる」人材：専門×データ・AI



カリキュラム概念図

※Ti-TEAM : Team inITiatives based on cooperative Education to support the Ability to discover and solve problems from Multiple perspectives の略



富山高等専門学校技術振興会

令和7年12月2日（火）富山高等専門学校技術振興会理事会・総会・交流会
が開催されました。

2025.12.10

令和7年12月2日（火）にホテルグランテラス富山において令和7年度富山高等専門学校技術振興会理事会・総会・交流会が開催されました。総会には、会員や本校教職員等約180名が出席し、令和6年度の事業報告、令和7年度の事業計画等について審議され、原案どおり了承されました。

総会終了後は、交流会を実施し、本校の専攻科生等による共同研究やインターンシップ等の事例・成果紹介を行いながら、会員や参加者による活発な意見交換が行われました。

技術振興会公式Webサイト

<https://www.nc-toyama.ac.jp/tech/>



交流会の様子



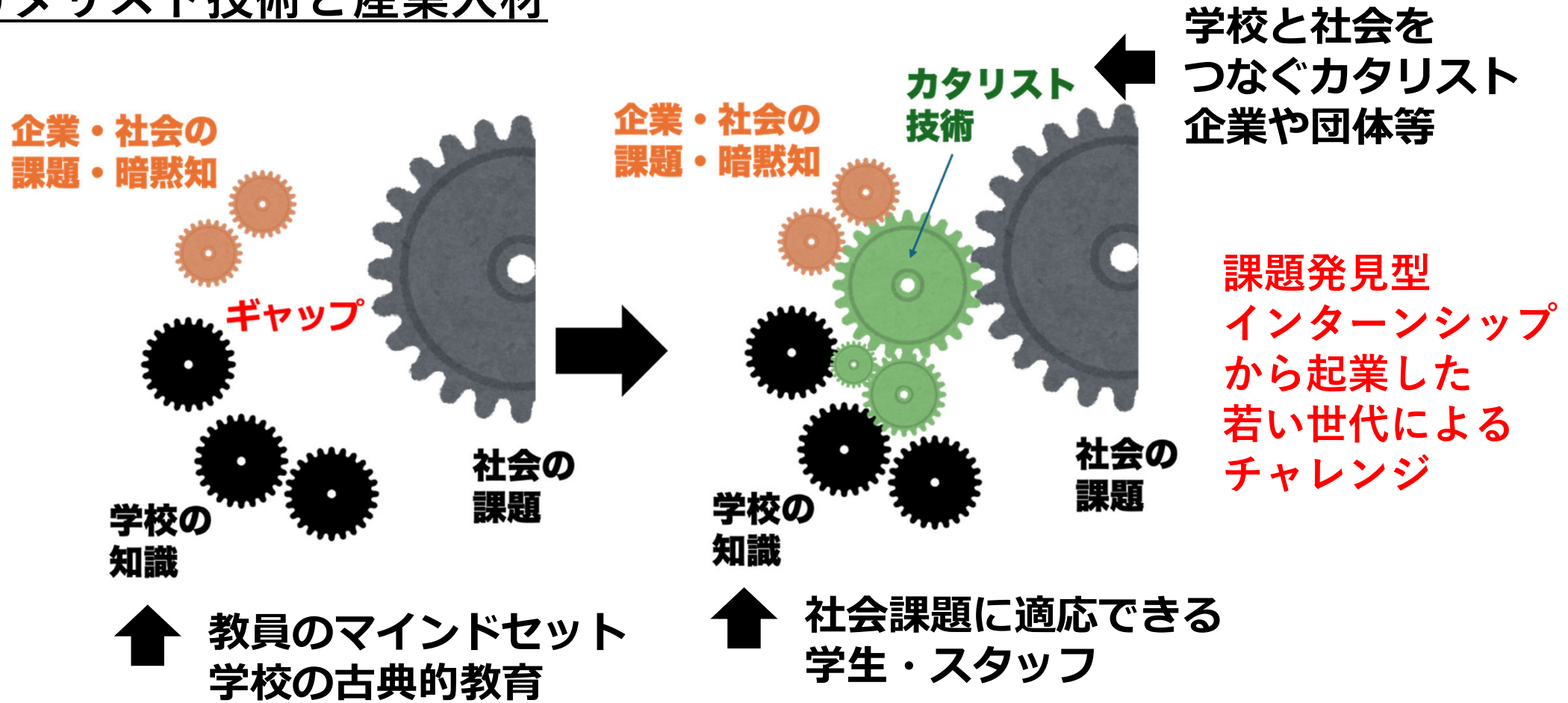
杉野会長による挨拶



総会の様子

富山県内のみならず北海道から沖縄まで、
約320社からなる「応援団」
→ほぼすべての高専にある。

カタリスト技術と産業人材





産業人材育成例：課題発見型インターンシップ

みんな違うからできること

「学科横断」がイノベーションのカギ

どんな意見も、最初は正解かわからない。



3人で取り組む、
だから現場の課題が見える

2023年8月、東京の日本システム株式会社の事業所で研修を受け、企業が抱える課題を共有した。
技術面・UI面、それぞれを電子情報の異分野からの視点でアイデアを出し、技術・ビジネスモデルとして形にしていく。

インターンシップで現場体験



1日目

品川の本社にて、事前にPCそのものの基礎知識を学んだ上で、リユースPC業界・企業の課題を理解し、5日間を通しての問題意識をチームメンバー間で共有、自分たちに何ができるか模索した。



2日目

埼玉県草加市のリユースPCの点検・検査センターに移動。「もっとリユースPCの価値を高めるため」に技術的に何が必要で、改善していけるところはないか等、センターの方とも議論を深めた。



3・4日目

2日間での学びを元に、方向性を再確認、メンバー全員でひたすら議論を深めた。
現実的な課題に対しても、学生視点のアイデアは通用し、学んできた知識を活かし、なんとか成果として形に。



5日目

待ちに待った成果発表。社員全員の前で、ビジネスモデルとして今後組み込んでいけるようなアイデアを提案し、社長からの鋭い指摘を賜り、今後の課題として認識、それぞれが成長できた5日間となった。



富山高等専門学校のスタートアップ・協働教育のながれ

